

保 存 活 用 計 画 書

景観資産の名称	万灯呂山公園からの山城盆地の眺望
申 請 者	万灯呂山の歴史を守る会

代表写真



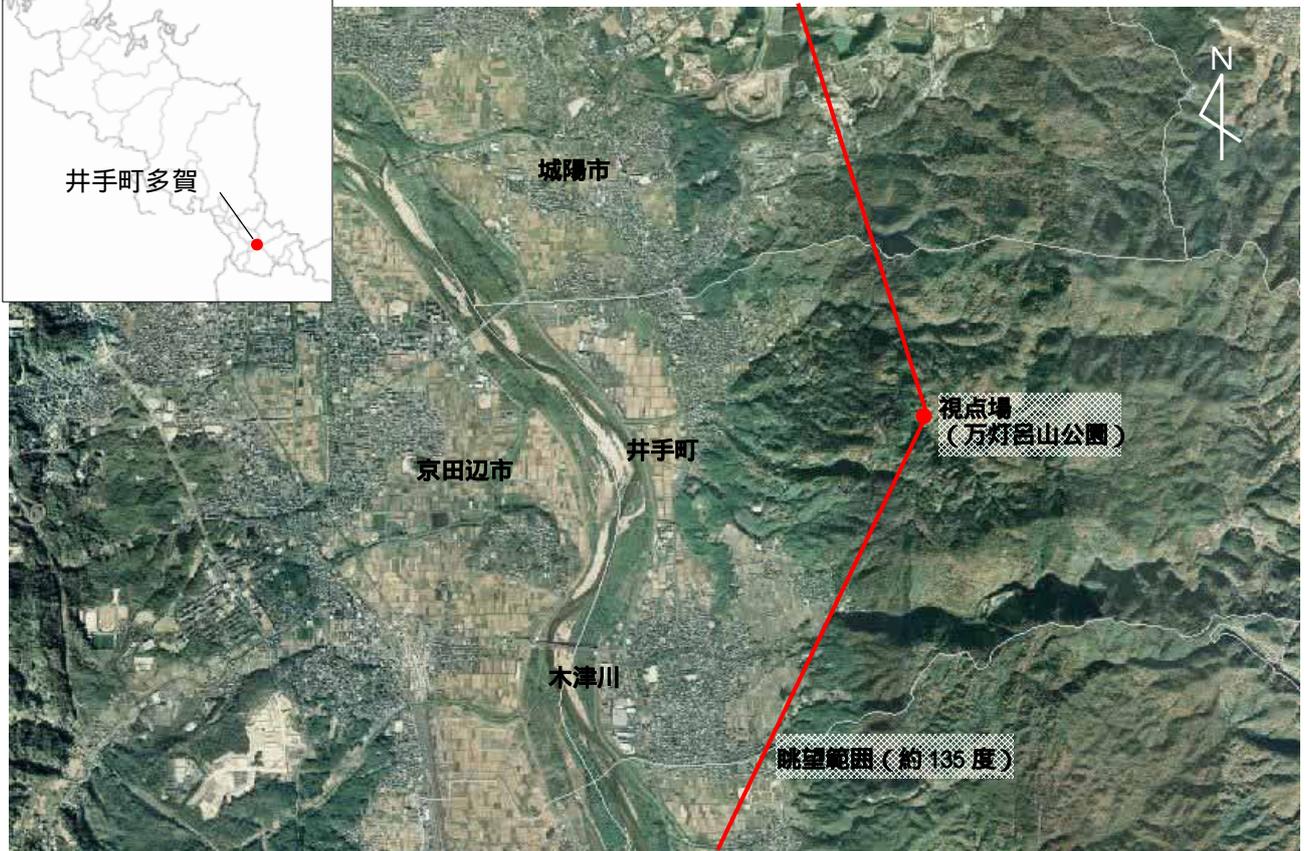
1 位置及び範囲

【位置】



【登録範囲】

・万灯呂山公園を視点場として、眺望される範囲を登録範囲とします。



2 自然、歴史、文化等からみた景観特性

景観資産の魅力

- ・山城盆地は、木津川を中心に平安京と平城京を繋ぐ街道沿いに都を支える豊かな農村が点在していた。そういった歴史の変遷を俯瞰できるのが万灯呂山公園である。
- ・芝生に座り込んだまま景色を眺めることができ、京都タワーから関西文化学術研究都市はもちろん、枚方パークや大阪方面まで広範な眺望が楽しめる。まわりは森林に囲まれ、静かな環境にある。眼下には、木津川に沿って国道24号線・JR 奈良線が延び、電車の走る音が聞こえてきそうなのどかな展望台であり、特に夜景は多くのメディアでも紹介されているすばらしい景観である。



自然的特性

- ・本町山間部は隆起準平原山地であり、公園のある大峯山は、その西端にあたることから西側は急峻な地形を呈し、東側は準平原山地となっている。このような地形から、西方約1.7キロメートルに位置する木津川沿いの国道24号線との高低差は約270メートルであり、約135度の視角を有している。
- ・大峯山は標高304mと眺望点として適度な高さにあり、なだらかな山裾に広がる多賀地区のまちなみ、悠々と南北に流れる木津川、その奥に広がるなだらかな京阪奈丘陵までを見渡すことができる。

歴史・文化的特性

- ・万灯呂山の正式名称は大峯山で、かつては雨乞いの儀式が行なわれた所でもあり、江戸時代の文献に登場する。この山の麓にある「龍王の滝」で神事を行なった後、ご神火を松明に移して大峯山まで松明行列を行ったが、これが「万灯呂」のように見えたことから「万灯呂山」と呼ばれるようになった。
- ・眺望を構成する重要な要素となっている木津川は、川沿いに縄文・弥生時代の遺跡や多くの古墳が点在し、早くから生活の場があったことが分かる。また、中世には、山城国一揆により自治国家が成立したところでもある。したがって、先進的な文化を持つ農村地域である。
- ・「万灯呂山公園」は、平成5年、町ふるさと創生事業により完成し、翌年から万灯呂山の歴史を後世に伝えようと、大峯不動講が盆の精霊送りの行事として「大文字」点灯を始めた。平成12年には同守る会を設立して行事等を引継ぐとともに、町の活性化に努めている。

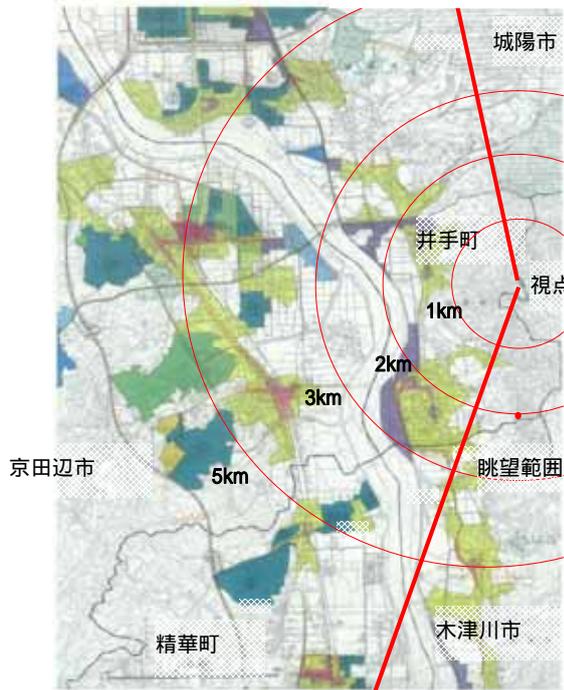
周辺環境との関係

- ・公園から北方約500mの大峯山山裾に、落差13mの龍王滝がある。龍王滝から公園までは勾配のある散策路があり、公園からは大正池にも通じている。周辺は、準平原山地で竹林や森林が多く、そう高くない山並みが続いている。



3 景観の保存、育成及び創造に関する事項

法律や条例などによる景観上の規制誘導事項



- ・視点場である万灯呂山公園は、井手町都市公園条例で公園内における許可を要する制限行為や禁止行為が規定されています。
- ・視点場である万灯呂山公園から概ね半径1kmは近景～中景エリアと考えますが、保安林(森林法)として保全される樹林地となっています。
- ・遠景エリア(半径1kmから先)は、井手町域は市街化区域(第1種住居地域、準工業地域(いずれも、建ぺい率60%、容積率200%))などが広がり、概ね和瓦を中心とした多賀集落が広がりますが、建物の意匠の規制がないことから一部に青色の屋根が見られます。また、隣接する城陽市、京田辺市、精華町、木津川市での大規模工場やマンション、大学などの建築物は、眺望景観上影響がありますが、各地域ごとに、意匠制限の有無が異なります。

景観づくりの目標像

- ・万灯呂山(大峯山)が持つ歴史的意義を来訪者が共有し、さらに、眺望する地域に住む住民や行政などの関係者にも、眺望景観を構成する地域の構成員として、このすばらしい景観とともに、都を繋ぐこの山城盆地で育まれた営みや文化を理解されることで、南山城地域における重要な景観地として育てていきます。

景観づくりの取組

[現状]

万灯呂山公園の清掃活動

- ・万灯呂山の歴史を守る会において、年3回程度、周辺の草刈作業を行なう。又、町や井手町勤労者協議会とともに随時美化作業を行ない、眺望する場として良好な環境維持に努めている。

[課題]

眺望範囲における景観保全対策

- ・眺望範囲の近景から中景域(1km以内)は、概ね森林が占めているが、それより遠方には、他の行政区域も含まれ、それぞれの土地規制に従い、建築物が立地しており、住宅屋根の色彩、大規模な工場など、眺望景観に影響を与えるものがある。

利用者マナーの向上

- ・訪問者が増える中で、ゴミの散乱や花火等利用者のマナーの欠如が見られ、火災の心配から7月20日～8月31日まで平日(17時～翌朝8時)・土日(21時～翌朝8時)は、侵入ゲートが閉められている。

[解決のためのアイデアや方針]

景観の価値の共有と景観保全対策の検討

- ・眼下に広がる多賀地区では、俯瞰される地域として建物の屋根の形状や材質、色の検討とともに、昔ながらの地割りや雰囲気を残すまちなみの在り方など、地域の景観づくりの在り方を考える勉強会に取り組んでいきます。
- ・更に、眺望範囲に関係する町民や隣接市町などの行政機関にも働きかけ、山城盆地における眺望景観を掘り起こし、地域全体の持つ価値を高めていけるよう、啓発事業を検討します。

4 景観を活かしたまちづくりへの展開に関する事項

景観を活かしたまちづくり活動

[現状]

大文字の点灯

・8月16日に盆恒例の大文字の点灯を行う。山頂において電球60個による高さ約15メートル、横幅約18メートルの「大」の文字を浮かび上がらせるもので、夏の夜の風物詩として定着している。



まちづくりの情報発信「井手ネット」

・さまざまな現場の情報の発信と共有により、実際の交流や町の活性化へとつなげていくことを目的に、井手町では「井手ネット(<http://idenet.jp/>)」を開設し、万灯呂山の景観をはじめとした地域資源が発信されています。

[課題]

活動会員の拡大

・清掃や樹木の手入れ、さらに、イベントの実施等にあたっては、労働力が不足しているとともに、新たな活動推進には若い方の力も必要であり、ボランティア活動の会員の掘り起こしなどが必要です。

[景観を活かしたまちづくり活動のアイデアや方針]

南山城の歴史関連イベントの実施

・他地域の方とともに広く住民にも本公園のすばらしさと、場所や眺望景観から感じとれる歴史的価値を共有するため、南山城の歴史関連イベントを本公園で実施することを検討します。

更なる情報発信

・井手ネットをはじめ、歴史を守る会の広報紙や町広報などを利用し、活動をさらに周知していくことで、会の活動への賛同者を増やすとともに、眺望範囲における住民にも活動理念や景観保全の想いを伝え、共有していきます。

5 その他

提案団体の概要

組織名称

・万灯呂山の歴史を守る会

設立日、主たる事務所等の所在地、会員数

・平成12年3月5日 設立

・京都府綴喜郡井手町大字多賀小字西北組19

・25人(平成20年3月現在)

設立目的

・本会は、ボランティア活動として会員相互の親睦を図り、万灯呂山の自然と歴史を守り、井手町の文化振興と地域社会の発展に寄与することを目的に行う。

主な実施事業

- ・大文字の送り火運営、展望台及び周辺の清掃、草刈、PR活動等
景観資産の登録範囲における貴団体の活動対象範囲と活動内容
- ・大文字の送り火運営、展望台及び周辺の清掃、草刈、PR活動等

提案までの経過

- ・平成19年12月13日 当初提案
- ・平成20年1月15日 府からの検討事項の通知
- ・平成20年2月29日 山城盆地の眺望、風景、風土を考える勉強会

参加者 景観アドバイザー 門内輝行氏(京都大学大学院)

景観アドバイザー 中津川敬朗氏(元山城町教育長)

万灯呂山の歴史を守る会、京都府、山城郷土資料館、井手町、城陽市、
京田辺市、精華町、木津川市 (20名)



- ・平成20年3月5日 再提案

